

酸性雨の状況（酸性雨等モニタリング調査結果）

東アジア地域では、大気汚染等の深刻な環境問題を抱えつつ経済が急速に発展しており、酸性雨を含む越境大気汚染とその影響が懸念されています。市では酸性雨の実態を把握するため、継続的にモニタリング調査を実施しています。

1 調査方法の概要

（１）測定期間 令和６年４月～令和７年３月

（２）実施機関 郡山市環境保全センター

（３）調査地点

朝日：郡山市環境保全センター

堀口：郡山市上下水道局 堀口浄水場屋上

（４）調査内容

pH、降水量、陽イオン、陰イオン

2 調査結果の概要

酸性雨とは、狭義には pH5.6 以下の雨のことですが、令和６年度の pH 平均値は朝日で 5.2、堀口で 5.0 でした（表１）。図１に地点ごとのイオン成分沈着量、表２及び図２に pH 平均値の推移を示しました。

表１ ろ過式酸性雨採取による調査結果

調査地点	年間降水量 (mm/年)	pH の年間 平均値	年 間 沈 着 量 (単位:meq/m ² /年)											
			H ⁺	SO ₄ ²⁻	NO ₃ ⁻	Cl ⁻	Na ⁺	K ⁺	Ca ²⁺	Mg ²⁺	NH ₄ ⁺	Total-ion	nss-SO ₄ ²⁻	nss-Ca ²⁺
朝日	1154.3	5.2	6.9	14.4	11.1	15.0	12.4	1.9	10.7	4.7	8.6	86.0	13.0	10.2
堀口	1332.5	5.0	14.4	17.6	13.2	21.3	17.3	2.0	8.1	6.1	6.3	106.4	15.5	7.4

図１ ろ過式酸性雨採取による調査結果(地点別)

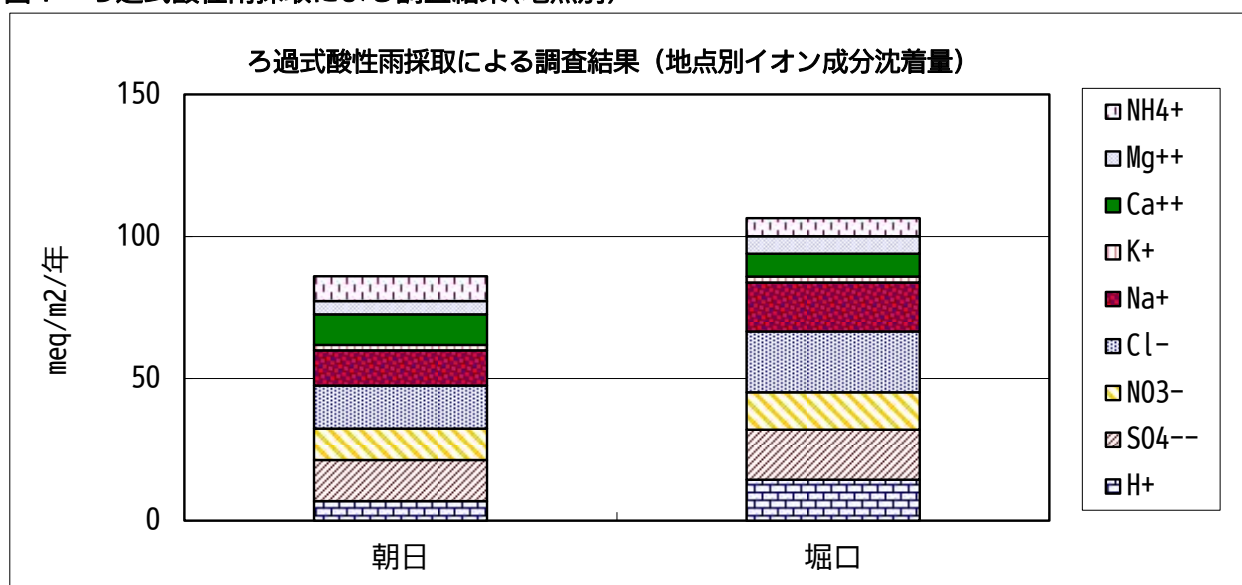


表2 酸性雨の pH 平均値の推移

年 度 調査地点	25	26	27	28	29	30	31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
朝 日	5.1	5.1	5.1	—	5.2	5.3	5.1	5.2	5.2	5.4	5.2	5.2
堀 口	4.8	4.9	4.9	4.8	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.1	5.0	5.0

図2 酸性雨の pH 平均値の推移

